県福祉大会の席上、ＪＲＣ委員会が赤い羽根共同募金等の活動により県知事賞を受賞しました。

特別養護老人ホーム「ながすずの里」での活動から

台風１９号で被災した宮城県丸森町に出向き、災害ボランティアにも参加しました。

山形新聞 10月28日(月) (第三種郵便物認可) 第48229号

復旧「手伝いたい」

台風被害の宮城・丸森

上山からボランティア 高校生ら早速泥かき

本県で台風19号の被災地支援の動きが加速している。県や市町村職員の派遣に加え、福祉団体などによる復旧支援が相次ぐ中、上山市社会福祉協議会の呼び掛けで集まった上山明新館高の2、3年生や市民、福祉施設職員約40人は27日、甚大な被害を受けた宮城県丸森町でボランティア活動を展開した。同じ東北の仲間として被災者に寄り添い、汗を流す参加者の姿を追った。 ＝3面に関連記事

道路に堆積した泥を取り除くボランティア
＝27日午前10時44分、宮城県丸森町

台風で大規模な浸水被害が発生した丸森町は25日午後から26日未明にかけて再び大雨に見舞われた。ボランティアセンターなどによると、人手が足りず、対応できていない派遣依頼は100件以上に上っている。

参加者たちは午前10時前に現地に到着。町中心部の役場から徒歩10分ほどにあり、台風被害の大きかった同町飯塚で泥かきを手伝った。25日の大雨で再度水があふれ、泥が運ばれてきたという。16日の現地取材時に比べ道路は多少きれいになったように見えたが、泥だらけの民家や側溝はそのままとなっており、復旧への道のりの遠さを感じた。

上山明新館高2年菊地俊乃介さん(17)は「すごい被害と聞いていたけど、思ったよりひどい」と想像を超える町の光景に驚いた様子。「地面が泥でぬかるんでいてやりづらい」と慣れない作業に悪戦苦闘していた。「手伝いたかった」と話すのは民家の敷地で泥かきをしていた3年青木七星さん(17)。「疲れるけど、おれを言われてうれしかった」と笑顔を見せた。

自宅脇の側溝の泥かきを手伝ってもらった女性(43)は「大変助かる。いくら感謝しても足りないくらい」と話す一方、「家の床下にはまだ泥が残っており、いつ作業が終わるか分からない。日常の生活に戻れるだろうか」と見通しの立たない現実に声を落とした。

参加者は午後からも冠水した民家前での泥かきや家財の運び出しなどを精力的にこなし、午後3時に作業を終了した。同校3年の大沼美聖さん(18)と工藤悠可さん(18)は「困っている人のために協力した。地域に貢献できたと思う」と充実した表情を見せた。

現地でのまとめ役となった上山市社協の鏡洋志主幹は「やるべき事が多く、まだ復旧は難しいと感じた。活動を通じて支援の輪が広がれば」とさらなる支援の必要性を強調した。

（小田信博）